

集落の将来を考えるサポートツール

—「持続可能な地域づくり」に向けて—

令和7年(2025年)3月
兵庫県 企画部 地域振興課

目次

1. はじめに – 集落のワガゴト化ツールとは
2. 集落のワガゴト化ツール
3. 支援者が見立てるツール

1. はじめに

1-1. サポートツール開発の背景

人口減少のさらなる進行により、近年、兵庫県内においては、**多自然地域※1**を中心に**小規模集落※2**が**拡大**しており、個々の集落においても担い手の枯渇が進み、**集落運営の維持・活性化に取り組むことがこれまで以上に困難な状況**となっています。

※1 市街化区域等の市街地を除く自然豊かな地域

※2 世帯数50戸以下かつ高齢化率40%以上の集落

県内小規模集落数の状況



1-2. サポートツールについて

支援者が地域づくりを進める上で、**それぞれのステップごとに有効な3つのツール**を作成しました。全体を取りまとめたマニュアルのほか、ツールごとのマニュアルや各ツールで活用するデータ集やカルテ、様式集などがあります。

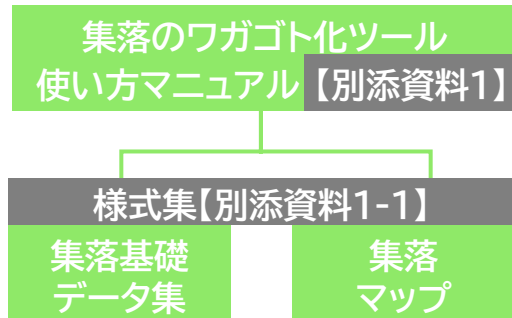
集落の将来を考えるサポートツール

集落のワガゴト化ツール

【ねらい】

- ・集落の現在と将来の姿[※]を
見える化
 - ・住民のワガゴト化
- ※現状から推測される集落の10年後の姿

【ツール】

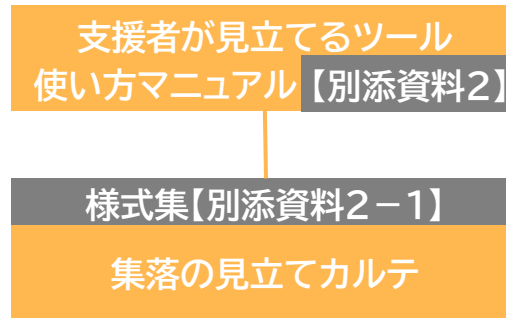


支援者が見立てるツール

【ねらい】

- ・支援者が集落の状況を的確に見
立てることができる
(集落のタイプ(特性)の把握)
- ・特性に応じた支援手法の検討に役
立てる

【ツール】



集落支援ツール(仮)

【ねらい】

- ・集落が将来に向けた取組を円
滑に進めていくことができるよ
うに、集落のタイプ(特性)に応
じた効果的な支援手法を明確化

【ツール】

※詳細はR7年度検討

1-3. サポートツール活用の留意点

○サポートツールは、

- ・集落の正確な情報を集める
- ・集めた情報を元に、集落の支援のあり方を見立てる
- ・支援者どうしの連携を深める
- ・支援者の能力を高める ことを手助けするツールとして作成しています。

○様々な集落支援で活用できることを念頭に作成していますが、すべての集落の実情を網羅しているわけではありません。

そのため、携わる集落の実情に応じて、

- ・支援者でカスタマイズする
- ・不要な情報を取捨選択する 必要があることに留意してください。

○支援者が負担にならないように、活用していただければ幸いです。

1-4. 集落のワガゴト化ツールとは

どんなツール？

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、
地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援するツール

誰が使うの？

地域支援者の皆さん
例えば…市町職員、地域再生アドバイザー、中間支援組織の方などの支援者

いつ使うの？

例えば…

【集落から相談や要望があった時】

【自治体が地域づくりの政策検討をしたい時】

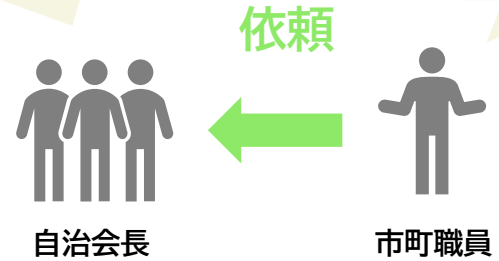
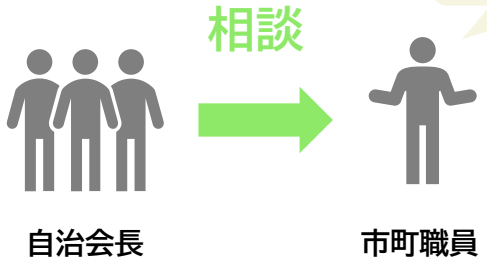
集落の将来が不安
でどうしよう…

サポートツールを
使ってみませんか？

せっかくの機会だから
やってみよう

集落でお困りごと
ないですか？

サポートツールを
使ってみませんか？



どうやって
使うの？

自治会長等と進め方を協議し、事前に集落の状況をヒアリングした後、
住民の方に集まってもらい、「集落基礎データ集」や「集落マップ」を作成

1-5. 支援者が見立てるツールとは

どんなツール？

支援者が集落の状況を的確に見立て、必要な支援策を検討するツール

誰が使うの？

地域支援者の皆さん
例えば…市町職員、地域再生アドバイザー、中間支援組織の方など

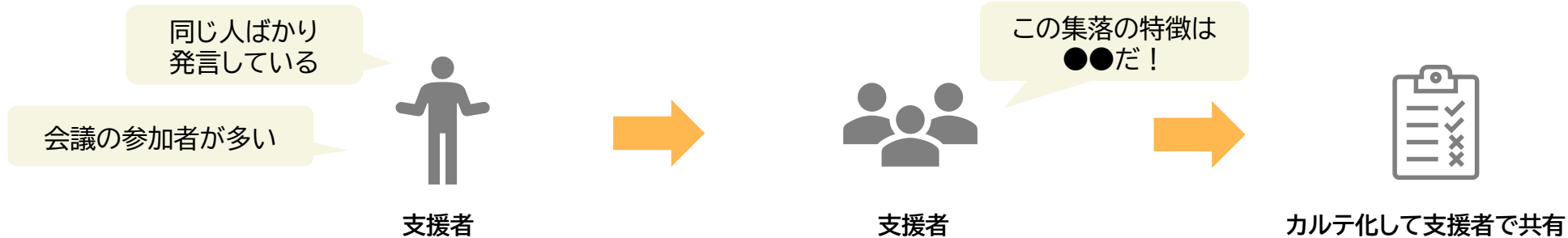
いつ使うの？

例えば…

【支援者どうして集落の状況を共有したい時】

様々なシーンで集落の状況を把握

複数人で話し合っ集落を見立て、所感等をカルテ化



どうやって
使うの？

「集落の見るべきポイント集」を参考に、
住民の話し合いや行事など様々な場面で、集落の雰囲気や状況を読み取り、
複数人の支援者でレポートし、「集落の見立てカルテ」として保存

1-6. 集落支援ツール(仮)ツールとは

どんなツール？

集落が将来に向けた取組を円滑に進めていくことができるように、**集落のタイプ(特性)に応じた効果的な支援手法を明確化したツール**

誰が使うの？

地域支援者の皆さん
例えば…市町職員、地域再生アドバイザー、中間支援組織の方など

いつ使うの？

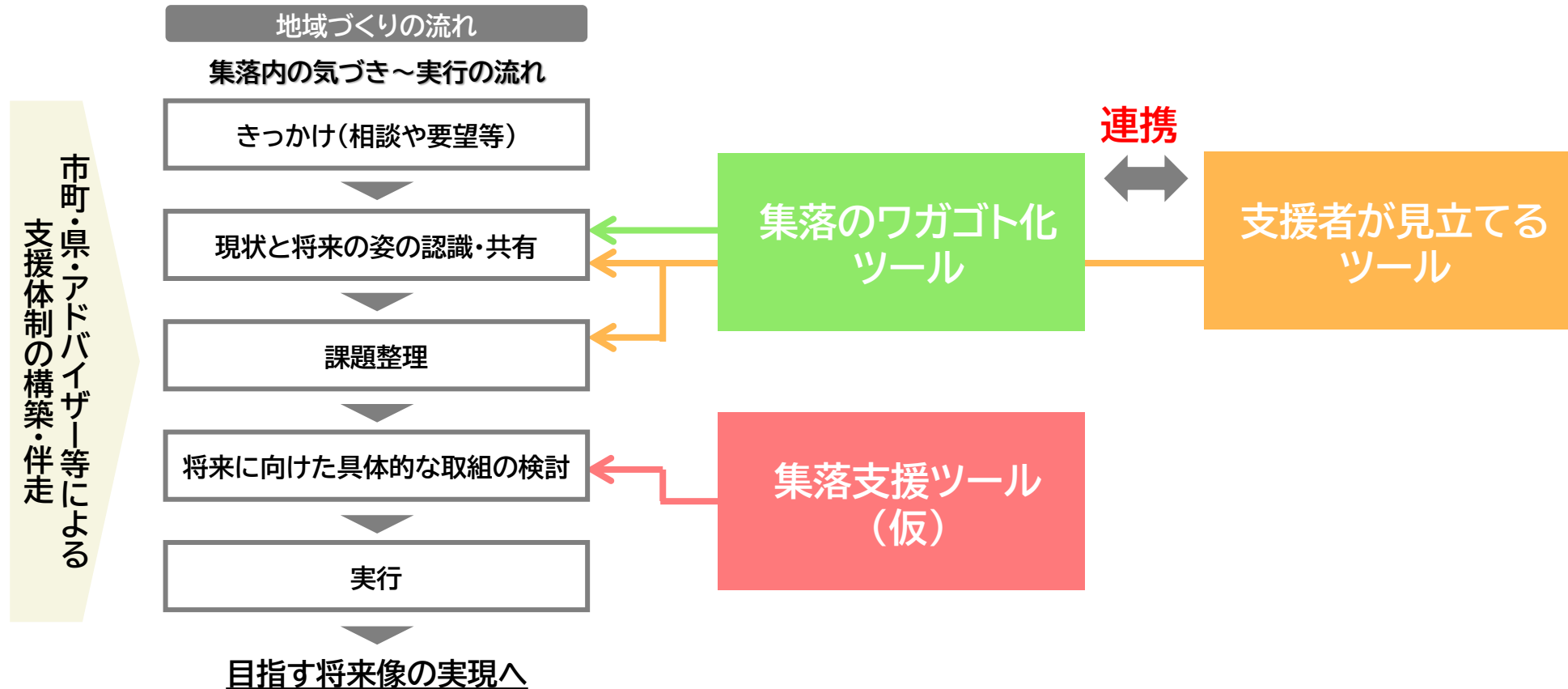
※詳細はR7年度検討

どうやって
使うの？

※詳細はR7年度検討

1-7. サポートツールの活用方法

集落のワガゴト化ツールは、集落の現状や将来の姿を可視化・共有化し、検討を始めるきっかけとして活用します。支援者が見立てるツールは、ワガゴト化ツールの情報も参考に、集落の立ち位置を把握し、課題を整理するために活用します。集落支援ツール(仮)は、具体的な支援方法を検討する際に活用します。



1-8. サポートツール活用のための体制づくり

地域づくりの取組には、庁内のさまざまな部署、地域づくりに関係する団体や支援者などの連携・協力体制の構築が重要です。

サポートツールの作成にあたり、関係する方々と集落の情報を共有しながら進めることは、関係者どうしの横のつながりが強まり、体制構築につながります。



● 地域づくりに関係する団体や支援者の例

- 社会福祉協議会
- 民生委員
- 集落支援員
- 地域おこし協力隊
- 専門的な人材支援
(兵庫県地域再生アドバイザー、中間支援組織)
など

● 地域づくりで共有したい集落(地区)情報の例

- 人口・世帯数(推移)
- 地理・歴史
- 住まい・空き家
- 共同施設
- 共同活動
- 活性化活動
- 伝統・文化行事
- 農地・ため池・山林
- 防災(過去の災害被害含む)
- 隣保・組編成
- 集落内の組織・役職
など

2. 集落のワガゴト化ツール

2-1. 集落のワガゴト化ツールの目的

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、**地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援するツールが「ワガゴト化ツール」です。**

【目的】

- ① 「集落の現状」を見える化する(可視化する)
- ② 集落の方が「ジブンゴト」として集落のことを考え、
主体的に地域づくりを進める
ことが円滑に進められるように作成したもの(フォーマット)

【期待される効果】

- 関係機関と情報共有を図りながら、集落との連携を深める
- 「持続可能な地域づくり」の連携・協力体制を整備する
- 集落の現状を把握し、施策に展開する

2-2. 集落のワガゴト化ツールの活用シーン

このツールは、

- 集落から相談や要望を受けたとき
- 集落について、住民どうしでもっと理解したいとき
- 支援者が集落とコミュニケーションをとりたいとき
- 地域づくりの施策検討をしたいとき

などの場面において活用できます。



集落マップの作成の様子(朝来市)

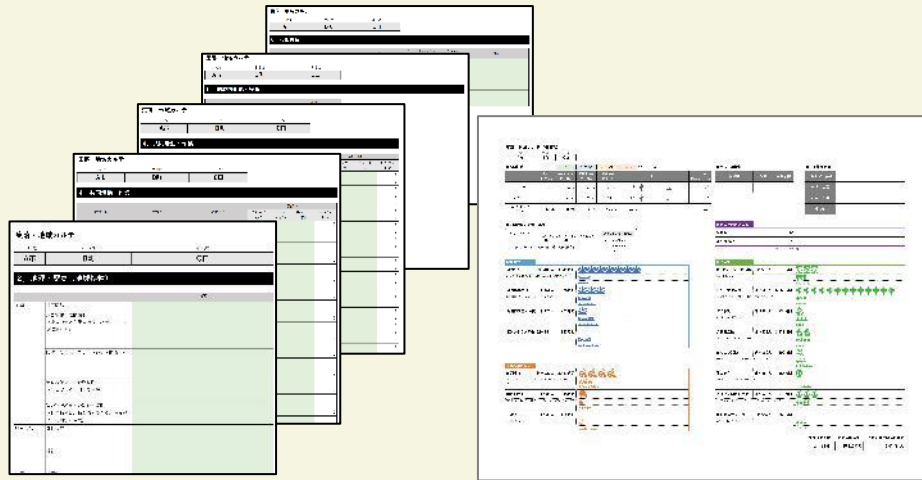


2-3. 集落のワガゴト化ツールとは

集落のワガゴト化ツールとは、【A】 集落基礎データ集、【B】 集落マップの2種類を言います。

【A】 集落基礎データ集

集落の実情(人口、共同活動の様子など)を正確に把握し、住民のジブンゴト化を進める



【B】 集落マップ

「現在と10年後の集落の姿」を可視化し、住民の方に危機感を持っていただく



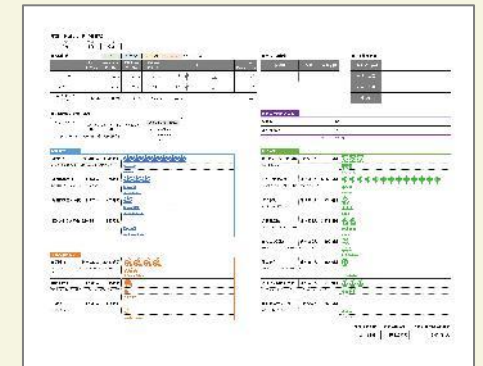
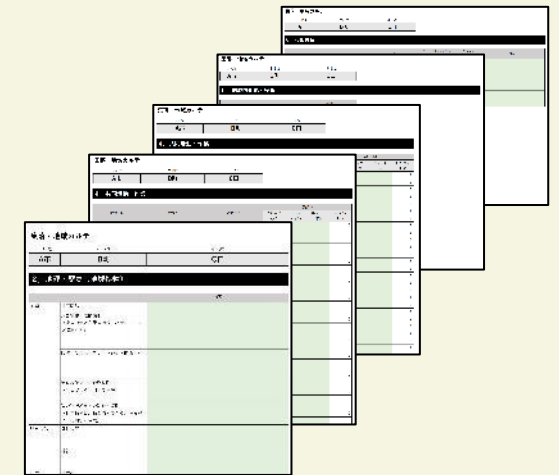
POINT!

- 集落のワガゴト化ツールは「作成すること」が目的ではありません。
地域で集まり「地域の現状やこれから」を話し合うきっかけとして、活用するものです。

2-4.【A】集落基礎データ集とは

【A】集落基礎データ集で収集(把握)する項目(例)

項目	内容(例)
ひと・人口構造	人口、年代、世帯、関係人口…
地理・歴史(地域特性)	地区面積、寺社、災害、住宅・空き家、交通…
地域施設	住民の共同管理施設・場所(公民館など)…
共同活動・作業	寄り合いの場、文化活動、防災活動、公民館活動、支え合い活動、環境維持活動…
地域内組織・役員	組織名、隣保・組編成、役職…
参加機会	女性、若者、外部人材の参加…
組織連携	広域や周辺の組織との連携…
資金資産	自治会費・区費、固定資産・預金…



※ 把握する項目の詳細は「集落のワガゴト化ツール使い方マニュアル(別添資料1)」を参照

2-5.【B】集落マップとは

【B】集落マップで把握する項目(例)

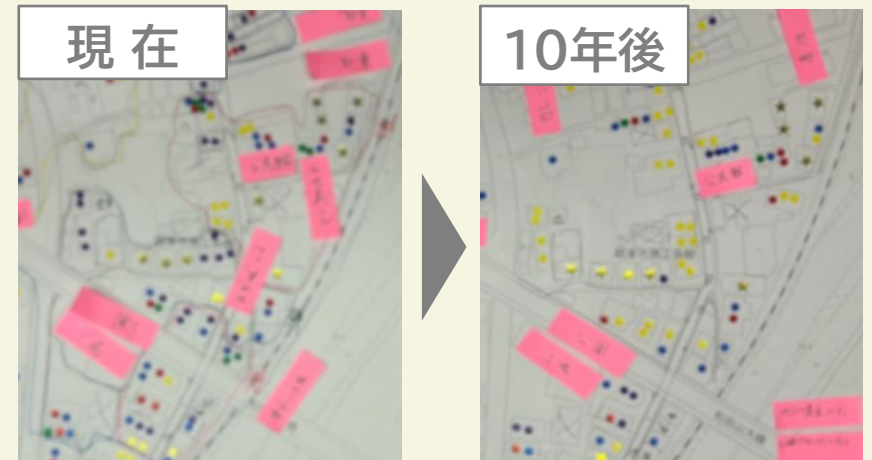
① 地図に書き込む情報

- 世帯とその人数・年齢
- 空き家
- 危険個所
- 隣保・組
- 農地の管理状況
- 交通 等
- 地域施設・公共施設
- 寺社仏閣

② 話し合いの中で確認していく項目

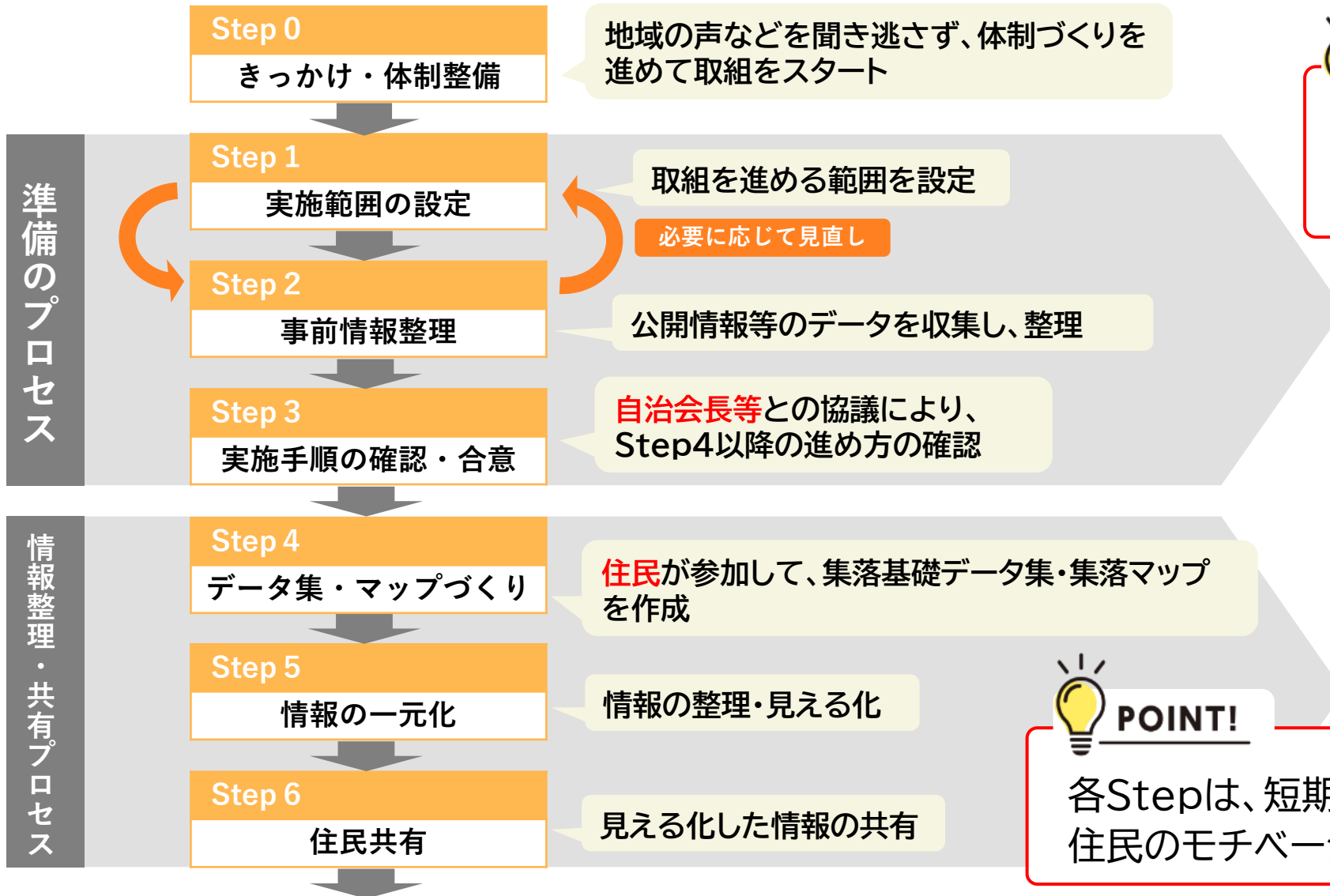
—地図をつくりつつ・眺めながら、以下の項目を話題にしながら、話し合う

- 現在の集落の役職・共同活動の内容など
- 将来について話し合う場・集落の行事・役職等の見直しや変更の有無・状況
- 集落で暮らしつ続けるために必要なこととそれらに対応し、集落で取り組んでいること
- 空き家や農地等の資産・土地利用の対応状況と意向
- その他、将来に向けて気になること・不安なこと・必要なこと
- 集落の魅力や強みなど



※ 把握する項目の詳細は「集落のワガゴト化ツール使い方マニュアル(別添資料1)」を参照

2-6. 集落のワガゴト化ツールの手順



POINT!

準備プロセスを進めながら
支援体制を整えましょう



集落マップの作成の様子（朝来市）



POINT!

各Stepは、短期間で実施する方が、
住民のモチベーションが維持できます

課題整理、将来ビジョン等の検討へ

3. 支援者が見立てるツール

3-1. 支援者が見立てるツールの目的

支援者が集落の現状を的確に見立て、必要な支援策を検討するものです。

1. 「集落の現状を的確に見立てる(把握する)こと」をサポート

- 集落の将来を考えていく上で、支援者は「どのような雰囲気集落か」、「新しい取組や動きは起こせそうか」などを、さまざまな場面(シーン)から把握することが求められます。
- これらは支援者の経験や感覚で行われることが多いですが、その指針として参考項目を示しながら、「集落の見立て」をサポートします。

2. 「集落の今後の支援活動につなげること」をサポート

- 「現在の地域の立ち位置(=集落の見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、それぞれの集落の状況に応じた、きめ細やかな支援活動につなげることをサポートします。

3. 「支援者間の対話の場づくり」をサポート

- 「集落の見立て」は、支援者間や集落の状況を知らないメンバーに共有するツールとして「場づくり」にも活用できます。



POINT!

「支援者が見立てるツール」は、集落の主体的な取組を促すことを手助けするものです。

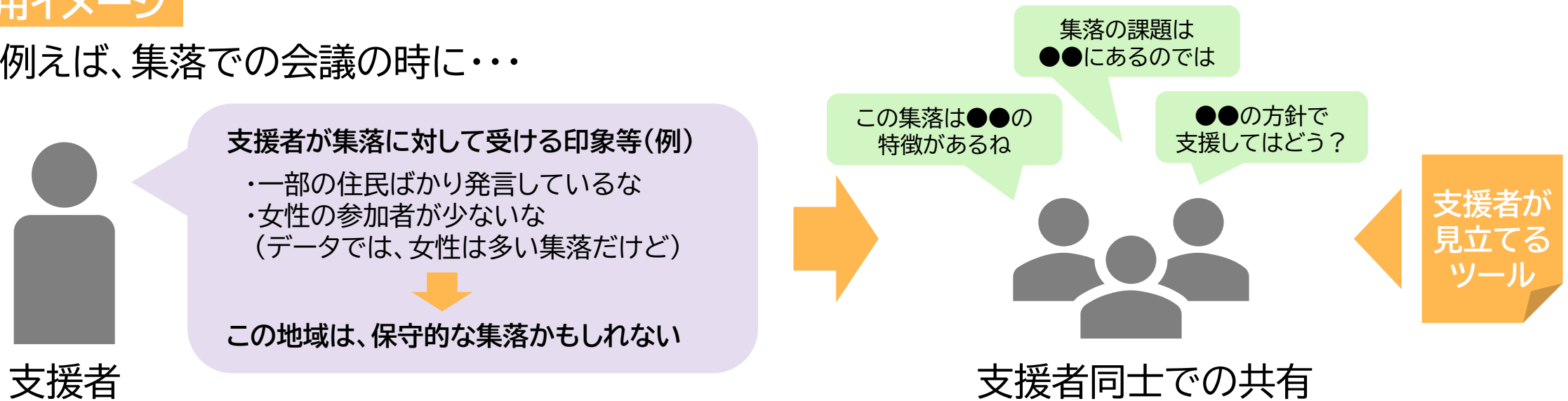
※集落に直接的に何かを起こさせるものではありません

3-2. 支援者が見立てるツールの活用シーン

集落の支援策を検討するためには、集落の現状を的確に見立てて、支援者同士で共有することが重要です。そのため、会議などの場面(シーン)で、支援者が考えていることを言語化し、共通言語として支援者同士での共有をサポートします。

活用イメージ

例えば、集落での会議の時に...



※その他にも、集落の現状を見立てる場面(シーン)はさまざまあります

- 役員等との打ち合わせ時
- 集落の視察時(訪問時)
- 住民の話し合い時(会合・寄り合い時)
- 総会資料等の確認時
- イベント・行事の参加時

3-3. 支援者が見立てるツールとは

「支援者が見立てるツール」は、「**集落の見立てカルテ**」を指します。
 また、「集落の見立てカルテ」を作成するために、集落の見るべき視点やポイントの指針として「**集落の見るべきポイント集**」があります。

支援者が見立てるツール

※ツールの使い方や詳細は、マニュアル(別添資料2)を参照

集落の見立てカルテ

支援者が作成するもの

- ・集落の現状を見立てる場面(シーン)で気付いた所感を、**複数人の支援者で共有し、カルテとして保存。**
- ・「現在の地域の立ち位置(見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、そのために必要な支援を検討する。
- ・必要に応じて、集落のタイプ分けを行う。

参考

The image shows a detailed form titled '集落の見立てカルテ' (Village Assessment Card). It includes sections for '集落の現状' (Current Village Status), '集落の立ち位置' (Village Position), and '集落が目指す姿' (Village Vision). There are checkboxes and text boxes for recording specific observations and assessments.

集落の見るべきポイント集

- ・集落に入る際に、支援者として見るべき視点・ポイントを示したもの。
- ・住民の話し合いや行事の様子などをもとに、集落の状況を把握し、「**集落や支援方法の見立てを支援者が考える際に参考**」とする。

The image shows a grid-based form titled '集落の見るべきポイント集' (Village Viewing Points Collection). It lists various viewing points (e.g., '多世代交流・活躍' - Multi-generational Exchange and Activity) and provides a grid for recording observations. The grid has columns for '見取り' (Viewing Point), '見取り' (Viewing Point), '見取り' (Viewing Point), and '見取り' (Viewing Point). There are checkboxes and text boxes for recording specific observations and assessments.

3-4. 集落の見るべきポイント集とは

「集落の見るべきポイント集」は、把握項目ごとに集落を見立てるポイントを例示し、集落を見立てることをサポートする指針です。

「集落を見立てる」にあたって把握する項目

※下記4項目ごとに「見るべきポイント」を記載



- 様々な世代・性別が交流しているか
- 人材がいるか



- 情報が共有されているか
- 危機意識が共有されているか



- チームワークがあるか
- 各種団体が一体的に動いているか



- 地域活動が積極的に行われているか
- 外部の団体等と連携しているか

※集落の規模・状況により、把握するべき項目は変わります。

3-5. 集落の見立てカルテとは

「集落の見立てカルテ」は、集落の現状を見立てる場面(シーン)において気付いた所感を、複数人の支援者でまとめるものです(コミュニケーションのきっかけとするもの)。

支援者同士の話し合いにより、「集落の見立てカルテ」を作成

● INPUT(支援者各自で集落の見立て)

- A 多世代交流 ⇒ ○○パターン
- B 人材 ⇒ ○○パターン
- C 情報共有 ⇒ ○○パターン
- D 地域の一体性 ⇒ ○○パターン



● OUTPUT(集落の見立てカルテ)

把握項目	詳細
見立てた概要	日付、作成者
集落の特徴	相談のきっかけ、課題、強み、特殊事情等
集落の所見	A~Dごとのタイプ分け、所見、総評、確認すべき事項
支援の方針	目指すこと、支援方針

A small thumbnail image of a completed 'Settlement Assessment Card' (集落の見立てカルテ) is shown in the bottom right corner. It is a structured document with various sections and tables, including a header with a title and date, and several rows of text and tables detailing the assessment.

3-5. 集落の見立てカルテのイメージ

「集落の見立てカルテ」の様式

〇〇市集落の見立てカルテ

集落名	●●集落		作成者	●●●●●●
			作成日時	令和●●年●●月●●日
課題 (相談のきっかけ)	(例) 自治会長から高齢化が進み、今後の地域活動が難しくなってきたと相談を受けた。			
集落の状況 (集落の強みや特徴、 特殊事情があれば記載)	(例) 中山間地域に位置する農村集落。 (ネガティブな話ばかりにならないように強みや特徴を記載、また「地区内に開発された分譲地がある」など、特殊な事情があるときはその旨を記載)			
1) 集落パターン				
集落パターン	A 多世代交流・活躍	B 情報共有	C 地域の一体性	D 活動
	(例) 役員主導型	(例) 特定人材共有型	(例) パラバラ型	(例) なんとか継続型
所見	(例) 役員は頑張っているが、他がついてきていない	(例) 役員間のみで話し合いが行われている	(例) 行事の参加者・協力が固定されている	(例) 活動に疲弊感がみられ、継続性が危ぶまれる
総評	(例) 役員のなり手が少なく、固定化している。役員に危機意識はあるが、地域住民に広く浸透していない。人材不足で新たな取り組みが進みにくい。			
確認事項	(例) 〇〇のような状況で、〇〇と見立てたが、まだ、集落の一部しか見られていないため、正確ではない。			
2) 支援の方針				
集落のありたい姿	(例) 50年後も住み続けられる環境を維持する			
支援の方針 (確認すべきこと等)	(例) 地域内での対話の場を増やし、課題意識を啓発していく必要がある。外部の人材の受け入れ体制整備など、集落活動の継続性を検討する必要がある。			
(参考)				
集落タイプ	カリスマ頑張り型			
所見	(例) 役員や特定の個人が中心に活動を行っており、地域住民にその活動が広がっていない。役員等の高齢化により、今後の集落活動の存続が危ぶまれる。			



- 支援者の集落への関わり程度により、見立てが異なることがあるため、「誰が・なぜそのように判断したのか」の理由を記載しておくことが大切です。
- 「集落の見立てカルテ」をファイリングすることで、変化の確認や引継ぎに役立ちます。
- 集落を見立てる際は、集落のよいところだけではなく、問題であるところも意識して判断する必要があります。
- できれば地域再生アドバイザーなどの外部の専門家を交えて、支援の方針を検討しましょう。